opusdei.org

第一章:この世界を 愛した司祭 (11Q08)

1. 私は無価値なみじめな者、しかし価値ある愛で一杯の者 (11Q08)

2010/07/15

11Q08 ここで先述したことからも窺われる他の面が現れますね。内的戦いにおける疲れの問題です。一度だけ、一言も発せないほど疲れきったエスクリバー・デ・バラゲル師を見たことがあります。1975年、アメリカへの旅からの帰途、マドリードの

モンタルバン学生寮に行かれたとき のことです。あの状況は、逆説のよ うですが、非常に励みをもたらすも のでした。

もう既にお話し頂けたことですが、 私は、オプス・デイ創立者の常変わらぬ微笑みの裏には、人には見えない多くの苦しみや困難が隠されていたのを垣間見ることが出来たと思います。

疲れるような理由があったとして も、戦いに倦むことなく、人々の救 いに献身し、励まなければなりませ ん。|

どんな時でも、元気をなくしたり、 懐疑的になったり、落ち着きを失っ たりすることはありませんでした。 エスクリバー師の傍では、度々私た ちに繰り返していた聖テレジアの 「神に信頼している人には、何も欠

神が私たちのために準備しておられる永遠の褒美を考えるよう励ましていました。何か難しいことがありたくないために言い訳をしたい時、物惜しみせずに対処するよう励ましました。「主よ、こんなら、人のことを私に要求なさるのでしょうか。」

同じ確信によって1964年、次のように忠告しました。「悲しみに警戒し

同じ意味のことを次のようにも言いました。それは、師の魂に響いていまりフレインを表したものです。 大リフレインを表したものです。 子供たちよ、詩編は全てgloria栄 光唱で結ばれていることを思い起えまではない。」そして言い加で、「私は長年たった一人で寄いるした。しかし希望をもって神におおました。くなる神がおよりくださったカリスなら、それを退

けることは出来ません。長い間、	Z
のように過ごしたのです。」	

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/di-zhang-konoshi-jie-woai-shitasi-ji-11q08/(2025/11/21)